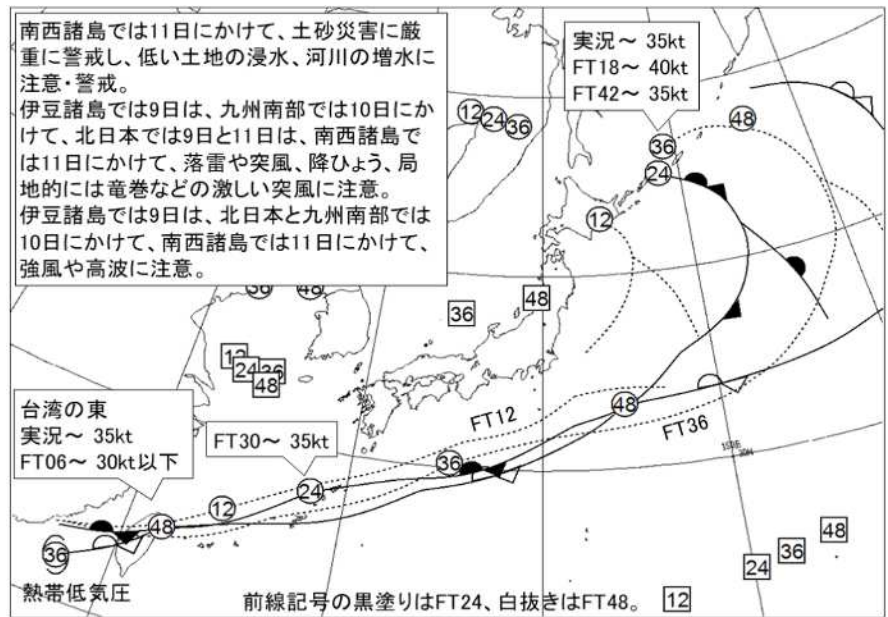


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5760～5820mの強風軸対応の前線が、台湾海峡～種子島・屋久島付近～日本の南にほとんど停滞。南西諸島周辺では雷を検知し、激しい雨や非常に激しい雨を解析。また、南西諸島でやや強い風を観測。
- ② 500hPa 5580m以下で-18℃以下の寒気を伴う寒冷渦が、日本海北部を東進。前面の津軽海峡付近には、前線を伴う低気圧があって東北東進。北～西日本に降水が広がり、北海道地方ではやや強い風を観測。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は東にのびて、11日にかけて南西諸島付近や日本の南にほとんど停滞する。前線上の東シナ海では、9日朝までに低気圧が発生して東北東進し、10日にかけて日本の東に進む。また、10日は南シナ海を東北東進する熱帯低気圧が台湾付近で前線上の低気圧となり、その後11日にかけて南西諸島付近に進む。前線や低気圧に向かう相当温位345～354Kの下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨が降って大雨となる所がある。特に南西諸島では、数日にわたって大雨が続いて総降水量が多くなることや、対流雲が組織化する可能性があることに留意。南西諸島では11日にかけて、土砂災害に嚴重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。伊豆諸島では9日は、九州南部では10日にかけて、南西諸島では11日にかけて、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。低気圧や前線の周辺では、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。伊豆諸島では9日は、九州南部では10日にかけて、南西諸島では11日にかけて、強風や高波に注意。
- ② 1項②の寒冷渦は10日にかけて宗谷海峡付近を通過して千島近海に進み、地上の前線を伴う低気圧は次第に寒冷渦の直下に入りながら10日にかけて千島近海に進む。また、11日は上層の寒気を伴う正渦度極大域が北日本を通過する。上層寒気や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴う激しい雨が降り大雨となる所がある。北日本では、9日は土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意し、9日と11日は落雷や突風、降ひょうに注意。低気圧や前線の周辺では、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。北日本では10日にかけて、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の前線上の低気圧の位置や発達程度は不確実性がある。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：九州南部・奄美150、沖縄120mm。

② 波浪(明日まで)：北海道4、伊豆諸島・九州南部・奄美・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。